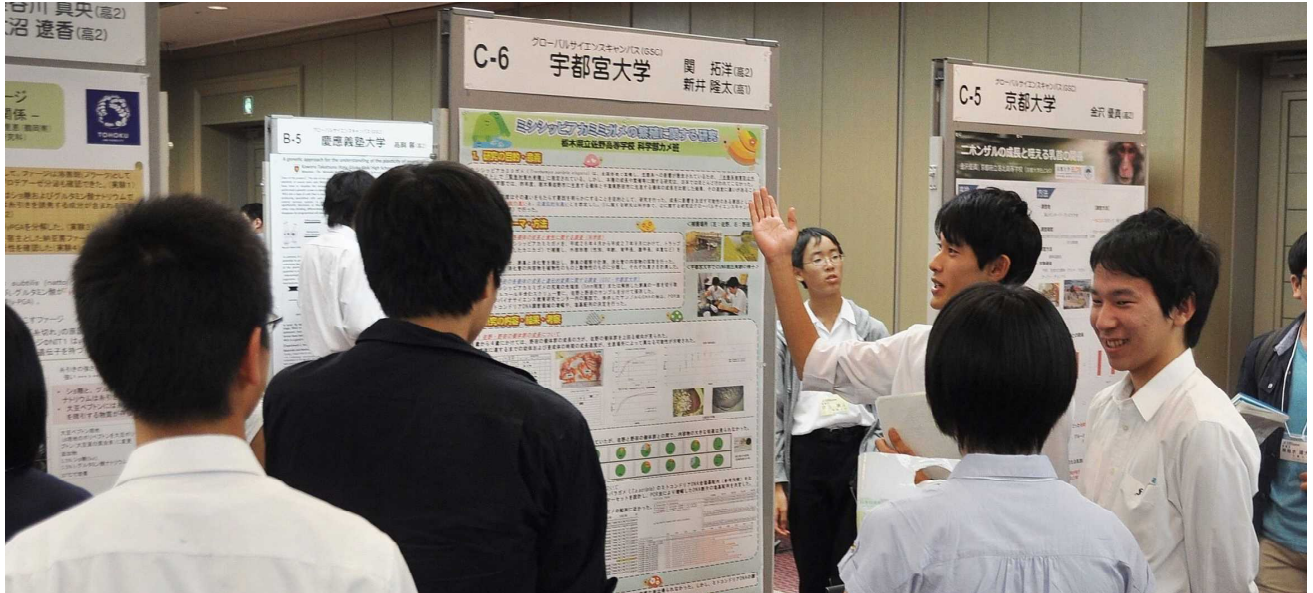


グローバルサイエンスキャンパス

平成27年度全国受講生研究発表会 in 東京



2015年9月19日・20日、東京都内の日本教育会館（19日）および一橋大学（20日）で**グローバルサイエンスキャンパス**（以下GSC、高校生対象）、次世代科学者育成プログラム（中学生対象）の全国受講生研究発表会が行われました。

GSCは、将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材を育成することを目的とした制度で、今年度、**宇都宮大学**が、全国**13大学**の一つとして採択されました。本校からは、高2の**関拓洋**さんと高1の**新井隆太**さんが応募し、選抜されました。さらに、2年目からの「才能育成コース」に跳躍（飛び級）し、8月から「バイオサイエンス教育研究センター」の松田勝教授のご指導のもと、アカミミガメの**DNA解析**を始めました。最先端の機材や設備を使って研究し、国際学会での発表や論文発表を目指しています。今回は、**宇都宮大学GSCの代表**として、本校の2名が発表しました。

二人は、19日の「日本動物学会」（新潟市）終了後、東京に直行し、夕方から「研究発表会」に合流しました。夜9時まで**アカデミックイフニングセミナー**があり、6分科会（20人程度）に分かれ、「研究は誰のためにやるのか」「研究は何を解決するのか」などのテーマで話し合いました。2日目は、大学の先生方による研究発表の審査がありました。**2名の審査員**に対して10分間の説明と5分間の質疑応答があり、これを**8組**くり返しました（非公開）。その後、受講生同士の発表があり、お互いの発表を聞いて質疑応答が行われました。話を聞いただけでもかなりハードですね。実際に、二人はかなり疲れた様子でしたが、同時に、深い**充実感**に満たされていました。

「もう**ぼろぼろ**です。大学の先生は痛いところをぐいぐい質問してきました。でも、課題が明らかになりました。（関）」
「中高生の研究のレベルの高さが半端じゃない。教科書には書いていない大学レベルの研究をしている。（新井）」

二人が2日間で、**とてつもない経験**をしたことは確かなようです。



宇都宮大学ゲノミクス棟でのラボワーク

